

令和7年度 学校経営の構想

作成年月日 令和7年4月1日

学校名 鈴鹿市立栄小学校 校長名 山中 勝

記述項目	記述内容
1 学校教育 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・徳・知・体の調和のとれた豊かな人間性と、自ら学び、ともにつながり、やり抜く力を持ったこどもの育成
2 めざす 学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを認め合い、自尊感情が高まる学校 ・こどもが夢をもち、意欲的、主体的に学ぶ学校
3 めざす こども像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び続ける子 ・自ら考え、表現する子 ・人を大切にする子 ・持つ力を出せる子 ・未来を思いえがく子
4 めざす 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に対する使命感と誇りをもち、こどもの人格と個性を尊重した指導ができる教職員 ・社会のニーズを把握し、探究心を持って、自主的に学び続ける教職員 ・豊かな人間性や社会性を持ち、教職員同士や家庭・地域等との信頼関係を築く教職員
5 経営方針	<p>全教職員が一体となった組織的な学校運営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 【1】 わかる楽しさや学び合う喜びを感じるこども主体の授業づくり 【2】 自尊感情を高めることができ、自分自身が認められる場面づくり (非認知能力の育成) 【3】 仲間を大切にして支え合う集団づくり (非認知能力の育成) 【4】 家庭や地域とともにある学校づくり 【5】 教職員が自らの成長を望み、やりがいを感じられる職場づくり
6 達成方策	<ul style="list-style-type: none"> 【1】 わかる楽しさや学び合う喜びを感じるこども主体の授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器等を活用し、こどもが主体的に学び、つながり、共感し合う授業づくりに取り組む。 ・学年や個々の発達段階に応じた学習規律や生活マナーを大切にした授業を確立する。 ・学力調査等の結果を分析し、継続した授業改善を進め、学力向上につなげる。 【2】 自尊感情を高めることができ、自分自身が認められる場面づくり (非認知能力の育成) <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が、学級や学年の枠にとらわれず、一人ひとりのこどもたちの気持ちや考えを受け止め、安心感を与える。 ・表現する楽しさを感じ、目的を持って相手にうまく伝えようとする姿を評価する。 ・同学年や異学年との交流を通して、互いの考え、多様な考えを交流する場を設定する。 ・授業・行事等の学校生活や家庭生活を通して達成感を持ち、自分自身に自信を持たせる。 【3】 仲間を大切にして支え合う集団づくり (非認知能力の育成) <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育や道徳、学級づくり等を通して、仲間を大切にする意識を高める。 ・仲間とのよりよい関係づくりを通じて、いじめを許さない学級づくりに取り組む。 ・不登校傾向を示すこどもの状況を把握し、未然防止や早期対応等に取り組む。 ・こどもの個々に応じた支援体制を図り、具体的な支援に取り組む特別支援教育を進める。 【4】 家庭や地域とともにある学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心に家庭や地域と協働し、学校支援ボランティア、地域住民等と連携して教育環境の充実を図る。 ・ホームページや学校だより等により、学校生活や行事等を積極的に発信する。 ・天栄中学校区の小中の連携した取組の充実を図る。 【5】 教職員が自らの成長を望み、やりがいを感じられる職場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・学調、みえスタ等の結果を基に授業改善に向け、積極的に校内研修等に取り組む。 ・教職員が互いに支え合い、メンタルヘルスに留意し、相談しやすく風通しの良い職場づくりに努める。 ・コンプライアンスの醸成に努め、信頼される学校づくりを推進する。 ・ICT 機器を有効に活用し、効率的に校務等を進め、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る。(総勤務時間の縮減) <p>◆休暇取得 (年間平均 22.0 日以上)、時間外労働時間年間 360 時間を超える職員ゼロ、時間外労働月 45 時間超職員ゼロ、定時退校日 (月 2 日設定)、校内会議の短縮 (1 時間以内の割合 70%以上)、職員会議資料の前日までの配布と電子化</p>